

四 半 期 報 告 書

(第50期第2四半期)

自 2020年10月1日

至 2020年12月31日

工藤建設株式会社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期財務諸表】	11
2 【その他】	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	24

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年2月12日

【四半期会計期間】 第50期第2四半期(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

【会社名】 工藤建設株式会社

【英訳名】 KUDO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 工藤 英司

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市青葉区新石川四丁目33番地10

【電話番号】 045(911)5300(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理部長 秋澤 滋

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市青葉区新石川四丁目33番地10

【電話番号】 045(911)5300(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理部長 秋澤 滋

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第49期 第2四半期累計期間	第50期 第2四半期累計期間	第49期
会計期間		自 2019年7月1日 至 2019年12月31日	自 2020年7月1日 至 2020年12月31日	自 2019年7月1日 至 2020年6月30日
売上高	(千円)	7,344,972	9,683,225	18,650,871
経常利益	(千円)	31,628	313,067	584,480
四半期(当期)純利益	(千円)	29,315	209,180	410,216
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	3,894	23,688	1,743
資本金	(千円)	867,500	867,500	867,500
発行済株式総数	(千株)	1,331	1,331	1,331
純資産額	(千円)	3,786,723	4,240,440	4,146,469
総資産額	(千円)	14,711,640	15,699,451	13,889,867
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	25.68	183.22	359.30
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
1株当たり配当額	(円)	—	—	105.00
自己資本比率	(%)	25.7	27.0	29.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	31,026	△785,815	△838,840
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△364,522	△200,714	△73,162
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	498,101	1,531,318	50,449
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,775,288	1,293,918	749,129

回次		第49期 第2四半期 会計期間	第50期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2020年10月1日 至 2020年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△34.79	159.14

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、当社業績に与える影響については慎重に注視してまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況の概要

① 経営成績の状況

当第2四半期累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。政府による各種政策の効果等もあり、持ち直しの動きが続くことが期待されているものの、内外の感染拡大による社会経済活動の下振れリスクの高まりに十分注意する必要があります。

建設業界におきましては、公共投資は堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症の影響による民間企業の経営環境の悪化に伴う設備投資の先送りや規模縮小の動きがあり、今後も建設需要やニーズの変化に対して注視が必要な状況が続いております。

住宅業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、新設住宅着工戸数は持家・貸家・分譲住宅ともに前年を大幅に下回るなど住宅業界を取り巻く環境は厳しく、加えて雇用・所得環境の悪化に伴う消費者マインドの低迷もあり、住宅投資は総じて弱い動きが続いております。

介護業界におきましては、高齢化率の上昇及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、社会インフラとして介護サービスの需要が一層高まるなか、介護従事者については、有効求人倍率が高い数値で推移しており、引き続き介護人材の確保と組織づくりが介護事業者の課題となっております。

このような情勢のなか、当社は、神奈川・東京を中心とした営業エリアにおいて、お客様の感動を創造し、人生のさまざまなステージを支える生活舞台創造企業を目指して事業展開を図ってまいりました。

この結果、第2四半期累計期間における業績は、売上高96億83百万円（前年同期比31.8%増）、営業利益3億44百万円（前年同期比389.0%増）、経常利益3億13百万円（前年同期比889.8%増）、四半期純利益2億9百万円（前年同期比613.6%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

なお、セグメント利益は四半期損益計算書における営業利益に対応しております。

<建設事業>

売上高は、手持ち工事の順調な進捗により、54億17百万円（前年同期比82.0%増）、営業利益は2億63百万円（前年同期比89.2%増）となりました。

<不動産販売事業>

不動産販売部門に係る売上は仲介手数料のみとなりました。
（参考：前年同期売上高はございません。）

<建物管理事業>

売上高は、手持ち大規模修繕工事の減少により、17億67百万円（前年同期比6.5%減）、営業利益は1億13百万円（前年同期比231.1%増）となりました。

<介護事業>

売上高は、入居率の向上により、24億88百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は2億44百万円（前年同期比34.4%増）となりました。

②財政状態の状況

(資産の部)

当第2四半期会計期間末における資産の残高は、156億99百万円(前事業年度末残高138億89百万円)となり18億9百万円増加しました。その主な要因は、現金預金が7億円増加、完成工事未収入金等が7億47百万円増加したことにあります。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末における負債の残高は、114億59百万円(前事業年度末残高97億43百万円)となり17億15百万円増加しました。その主な要因は、短期借入金が14億90百万円増加、未成工事受入金が3億58百万円増加したことにあります。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、42億40百万円(前事業年度末残高41億46百万円)となり93百万円増加しました。

③キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金同等物は、前事業年度末と比べて5億44百万円増加し、12億93百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、7億85百万円(前年同期は31百万円獲得)となりました。主な増加要因は未成工事受入金の増加額3億58百万円、主な減少要因は売上債権の増加額7億47百万円であります。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2億円(前年同期は3億64百万円使用)となりました。主な減少要因は定期預金の預入による支出1億55百万円、差入保証金の差入による支出1億3百万円であります。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、15億31百万円(前年同期は4億98百万円増加)となりました。主な増加要因は短期借入れの増加14億90百万円、長期借入金による増加6億円であり、主な減少要因は長期借入金の返済による支出4億4百万円であります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(5) 主要な設備

当第2四半期累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前事業年度末における計画の著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または、締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,400,000
計	4,400,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2021年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,331,220	1,331,220	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	1,331,220	1,331,220	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年10月1日～ 2020年12月31日	—	1,331,220	—	867,500	—	549,500

(5) 【大株主の状況】

2020年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社トップ	神奈川県横浜市青葉区新石川4丁目32-28	557	48.80
工藤 英司	神奈川県横浜市青葉区	39	3.49
株式会社MOMOコーポレーション	神奈川県横浜市都筑区中川中央1丁目24-6	39	3.48
株式会社横浜銀行 常任代理人 株式会社日本カストディ銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目1-1	39	3.42
工藤 次郎	神奈川県横浜市青葉区	33	2.94
八重沢 知正	神奈川県横浜市青葉区	32	2.80
工藤建設従業員持株会	神奈川県横浜市青葉区新石川4丁目33-10	18	1.61
川本工業株式会社	神奈川県横浜市中区寿町2丁目5-1	17	1.57
株式会社吉永商店	神奈川県横浜市中区日本大通15	15	1.37
戸田建商株式会社	東京都世田谷区宇奈根1丁目18-22	12	1.11
計	—	805	70.59

(注) 自己株式189,526株を保有しておりますが、大株主から除いております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 189,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,137,400	11,374	同上
単元未満株式	普通株式 4,320	—	同上
発行済株式総数	1,331,220	—	—
総株主の議決権	—	11,374	—

(注) 単元未満株式には当社所有の自己株式26株が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 工藤建設株式会社	神奈川県横浜市青葉区 新石川四丁目33番地10	189,500	—	189,500	14.24
計	—	189,500	—	189,500	14.24

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までの役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
常務取締役 介護事業部長	取締役 介護事業部長	藤井 研児	2020年10月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号。以下、「四半期財務諸表等規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（1949年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2020年10月1日から2020年12月31日まで)及び第2四半期累計期間(2020年7月1日から2020年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について清陽監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1,898,402	2,598,919
完成工事未収入金等	2,141,491	2,888,720
未成工事支出金	619,670	1,014,404
不動産事業支出金	398,232	398,274
貯蔵品	46,201	41,928
その他	791,122	834,135
貸倒引当金	△5,972	△7,925
流動資産合計	5,889,149	7,768,457
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,945,680	1,945,680
その他（純額）	1,441,384	1,393,423
有形固定資産合計	3,387,064	3,339,103
無形固定資産		
無形固定資産合計	195,005	178,472
投資その他の資産		
差入保証金	3,740,076	3,750,780
その他	682,696	669,217
貸倒引当金	△4,124	△6,581
投資その他の資産合計	4,418,648	4,413,417
固定資産合計	8,000,718	7,930,993
資産合計	13,889,867	15,699,451
負債の部		
流動負債		
工事未払金等	1,413,698	1,052,182
短期借入金	1,410,000	2,900,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 667,221	※1 661,551
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
未払法人税等	76,736	118,615
未成工事受入金	899,769	1,258,415
完成工事補償引当金	57,695	63,863
賞与引当金	33,905	19,865
転貸損失引当金	33,126	33,720
その他	1,371,644	1,357,412
流動負債合計	6,003,797	7,505,625
固定負債		
社債	70,000	50,000
長期借入金	※1 966,287	※1 1,167,936
預り保証金	1,837,660	1,919,187
転貸損失引当金	171,015	154,995
その他	694,638	661,266
固定負債合計	3,739,600	3,953,385
負債合計	9,743,398	11,459,010

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	867,500	867,500
資本剰余金	549,500	549,500
利益剰余金	3,230,259	3,319,561
自己株式	△496,387	△496,387
株主資本合計	4,150,871	4,240,173
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△4,401	266
評価・換算差額等合計	△4,401	266
純資産合計	4,146,469	4,240,440
負債純資産合計	13,889,867	15,699,451

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年7月1日 至2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自2020年7月1日 至2020年12月31日)
売上高		
完成工事高	※2 3,492,718	※2 5,869,891
不動産事業等売上高	1,375,663	1,324,823
介護事業売上高	2,476,589	2,488,510
売上高合計	7,344,972	9,683,225
売上原価		
完成工事原価	2,972,798	5,156,039
不動産事業等売上原価	1,295,784	1,155,437
介護事業売上原価	2,214,817	2,165,563
売上原価合計	6,483,400	8,477,041
売上総利益		
完成工事総利益	519,920	713,851
不動産事業等総利益	79,879	169,385
介護事業総利益	261,771	322,946
売上総利益合計	861,571	1,206,183
販売費及び一般管理費	※1 791,106	※1 861,626
営業利益	70,465	344,557
営業外収益		
受取利息	2,183	2,106
受取配当金	5,073	5,733
助成金収入	2,626	7,686
その他	2,551	9,627
営業外収益合計	12,434	25,153
営業外費用		
支払利息	48,399	48,664
貸倒引当金繰入額	—	2,484
その他	2,871	5,495
営業外費用合計	51,271	56,644
経常利益	31,628	313,067
特別利益		
事業譲渡益	—	11,625
特別利益合計	—	11,625
税引前四半期純利益	31,628	324,692
法人税、住民税及び事業税	9,753	95,550
法人税等調整額	△7,439	19,962
法人税等合計	2,313	115,512
四半期純利益	29,315	209,180

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	31,628	324,692
減価償却費	101,674	108,495
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△561	4,409
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12,631	△14,040
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△758	6,168
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	118,341	△15,426
事業所閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	24,057	—
受取利息及び受取配当金	△7,257	△7,839
支払利息	48,399	48,664
事業譲渡損益 (△は益)	—	△11,625
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△9,980	△6,683
売上債権の増減額 (△は増加)	△73,958	△747,493
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	28,000	—
未成工事支出金の増減額 (△は増加)	△965,096	△394,734
不動産事業支出金の増減額 (△は増加)	—	△41
仕入債務の増減額 (△は減少)	234,334	△361,515
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	1,012,105	358,645
預り保証金の増減額 (△は減少)	149,149	81,527
その他	△397,257	△59,916
小計	280,188	△686,714
利息及び配当金の受取額	5,162	5,764
利息の支払額	△48,682	△52,322
法人税等の支払額	△205,641	△52,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,026	△785,815
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△184,752	△155,700
有形固定資産の取得による支出	△25,202	△28,871
事業譲渡による収入	—	12,992
長期貸付金の回収による収入	278	285
差入保証金の回収による収入	—	86,344
差入保証金の差入による支出	△150,010	△103,657
その他	△4,836	△12,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△364,522	△200,714
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	706,000	1,490,000
長期借入れによる収入	450,000	600,000
長期借入金の返済による支出	△399,670	△404,021
社債の償還による支出	△20,000	△20,000
自己株式の取得による支出	△2	—
配当金の支払額	△205,510	△102,009
リース債務の返済による支出	△32,715	△32,650
財務活動によるキャッシュ・フロー	498,101	1,531,318
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	164,605	544,788
現金及び現金同等物の期首残高	1,610,682	749,129
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,775,288	※ 1,293,918

【注記事項】

(追加情報)

(過年度法人税等)

過年度において所得拡大促進税制にかかる法人税等の計上額を誤っていたため、前第2四半期累計期間の法人税等の金額から39,462千円を控除しております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響は不確定要素が多く、当第2四半期会計期間以降の当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期貸借対照表関係)

※1 財務制限条項

前事業年度(2020年6月30日現在)

① 当社は、㈱横浜銀行との間で、返済期限を2021年6月15日とする当座貸越契約を締結しており、当事業年度末現在200,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、㈱横浜銀行の当社に対する請求により本契約は終了することとなります。

(i) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の貸借対照表の純資産の部の金額を当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること

(ii) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の損益計算書において、2期連続して経常損失を計上しないこと。

② 当社は、㈱横浜銀行との間で、返済期限を2021年6月15日とする当座貸越契約を締結しており、当事業年度末現在500,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、㈱横浜銀行の当社に対する請求により本契約は終了することとなります。

(i) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の貸借対照表の純資産の部の金額を当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること

(ii) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の損益計算書において、2期連続して経常損失を計上しないこと。

③ 当社は、㈱三菱UFJ銀行との間で、返済期限を2020年11月30日とする個別金銭消費貸借契約を締結しており、当事業年度末現在20,870千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(iii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、利息の支払が以下の条件に従うこととなります。

利息の支払

財務制限条項の(i)から(iii)に定めるいずれか2項目以上に抵触した場合、本借入の利率は、原契約の「利率」の規定にかかわらず、各年度決算期の末日から5ヶ月後の応当日の翌日以降、最初に到来する利息支払日の翌日(当該日を含む。)から、翌年の年度決算期の末日から5ヶ月後の応当日の翌日以降、最初に到来する利息支払日(当該日を含む。)までの期間につき、以下の通り変更するものとする。

変更後の「利率」=原契約の「利率」+0.25%

(i) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の貸借対照表において、株主資本の金額を、2015年6月決算期の年度決算期の末日における株主資本の金額又は前年度決算期の末日における株主資本のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。

(ii) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の損益計算書において、営業損益及び経常損益の金額を0円以上に維持すること。

(iii) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の決算短信において、介護事業におけるセグメント別損益の金額を0円以上に維持すること。

④ 当社は、㈱三菱UFJ銀行との間で、返済期限を2021年3月31日とする当座貸越約定書契約を締結しており、当事業年度末現在450,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)

が付されております。当該条項のいずれか1項目以上に抵触した場合は、以下の条件に従うこととなります。また、当該条項のいずれかの同一項目に2期連続して抵触した場合、個別貸付の新規実行が停止されます。

(1) 本借入の利率は、原契約の「利率」の規定にかかわらず、当該抵触に係る年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日（決算期の末日が月末最終日の場合又は当該月数後の暦月において決算期の末日の応当日が存在しない場合には、当該月数後の暦月の最終日とする。本号において以下同じ。）の翌月以降、最初に到来する各個別貸付の支払日の翌日（翌年の年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日（当該日を含む。）までに新規に実行する各個別貸付については、当該個別貸付の実行日）（当該日を含む。）から、翌年の年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日の翌日以降、最初に到来する各個別貸付の利息支払日（当該日を含む。）までの期間につき、以下の通り変更するものとする。なお、本号が適用される場合の本貸付の利率の変更は、当該抵触につき、上記に規定する期間についてのみ生じるものとする。

変更後の「利率」＝原契約の「利率」＋0.5%

(2) 借入人は当該抵触が判明した時点から2ヶ月以内に本介護報酬債権を担保として差し入れるものとする。また担保差入と同時に本介護報酬債権に係る代り金の入金口座を貸付人指定の口座に変更すること。

(i) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の貸借対照表において、純資産の部の合計額を、2015年6月決算期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は、前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。

(ii) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の損益計算書において、経常損益の金額を0円以上に維持すること。

⑤ 当社は、横浜信用金庫との間で、返済期限を2020年11月30日とする当座貸越契約を締結しており、当事業年度末現在借入金残高はありません。

毎決算期ごとに当社を所管とする税務署に提出した確定申告書、営業報告書、貸借対照表、損益計算書等の決算書類に基づき下記の事由が生じた場合、新たな貸越の実行が停止されます。

(1) 直近の決算期において記載される純資産の部の金額が2019年6月期末の純資産の部の金額の75%以下になったとき。

(2) 直近の決算期において経常損益が2決算期連続で損失計上となったとき。

⑥ 当社は、㈱りそな銀行との間で、返済期限を2020年12月30日とする相対型コミットメントライン契約を締結しており、当事業年度末現在100,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項

(i) から (ii) が付されております。当該条項に抵触した場合は、㈱りそな銀行の当社に対する通知により、当社は㈱りそな銀行に対する本契約上の全ての債務について期限の利益を失い、直ちに本契約に基づき当社が支払義務を負担する全ての金員を支払い、かつ、本契約は終了することとなります。

(i) 本契約締結日以降の決算期（第二四半期を含まない）の末日における単体の貸借対照表における純資産の部（資本の部）の金額を、前年同期比75%以上に維持すること

(ii) 本契約締結日以降の決算期（第二四半期を含まない）の末日における単体の損益計算書に示される経常損益を損失とにならないようにすること。

当第2四半期会計期間(2020年12月31日現在)

① 当社は、(株)横浜銀行との間で、返済期限を2021年6月15日とする当座貸越契約を締結しており、当第2四半期会計期間末現在500,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、(株)横浜銀行の当社に対する請求により本契約は終了することとなります。

(i) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の貸借対照表の純資産の部の金額を当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること

(ii) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の損益計算書において、2期連続して経常損失を計上しないこと。

② 当社は、(株)横浜銀行との間で、返済期限を2021年6月15日とする当座貸越契約を締結しており、当第2四半期会計期間末現在700,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、(株)横浜銀行の当社に対する請求により本契約は終了することとなります。

(i) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の貸借対照表の純資産の部の金額を当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること

(ii) 決算期末日(各事業年度の末日)における連結及び単体の損益計算書において、2期連続して経常損失を計上しないこと。

③ 当社は、(株)三菱UFJ銀行との間で、返済期限を2021年3月31日とする当座貸越約定書契約を締結しており、当第2四半期会計期間末現在700,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項のいずれか1項目以上に抵触した場合は、以下の条件に従うこととなります。

また、当該条項のいずれかの同一項目に2期連続して抵触した場合、個別貸付の新規実行が停止されます。

(1) 本借入の利率は、原契約の「利率」の規定にかかわらず、当該抵触に係る年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日(決算期の末日が月末最終日の場合又は当該月数後の暦月において決算期の末日の応当日が存在しない場合には、当該月数後の暦月の最終日とする。本号において以下同じ。)の翌日以降、最初に到来する各個別貸付の支払日の翌日(翌年の年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日(当該日を含む。))までに新規に実行する各個別貸付については、当該個別貸付の実行日(当該日を含む。)から、翌年の年度決算期の末日から3ヶ月後の応当日の翌日以降、最初に到来する各個別貸付の利息支払日(当該日を含む。)までの期間につき、以下の通り変更するものとする。なお、本号が適用される場合の本貸付の利率の変更は、当該抵触につき、上記に規定する期間についてのみ生じるものとする。

変更後の「利率」=原契約の「利率」+0.5%

(2) 借入人は当該抵触が判明した時点から2ヶ月以内に本介護報酬債権を担保として差し入れるものとする。また担保差入と同時に本介護報酬債権に係る代り金の入金口座を貸付人指定の口座に変更すること。

(i) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の貸借対照表において、純資産の部の合計額を、2015年6月決算期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は、前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。

(ii) 2016年6月決算期を初回とする各年度決算期の末日における借入人の単体の損益計算書において、経常損益の金額を0円以上に維持すること。

④ 当社は、横浜信用金庫との間で、返済期限を2021年11月30日とする当座貸越契約を締結しており、当第2四半期会計期間末現在借入金残高はありません。

毎決算期ごとに当社を所管とする税務署に提出した確定申告書、営業報告書、貸借対照表、損益計算書等の決算書類に基づき下記の事由が生じた場合、新たな貸越の実行が停止されます。

(1) 直近の決算期において記載される純資産の部の金額が2019年6月期末の純資産の部の金額の75%以下になったとき。

(2) 直近の決算期において経常損益が2決算期連続で損失計上となったとき。

⑤ 当社は、(株)りそな銀行との間で、返済期限を2021年12月30日とする相対型コミットメントライン契約を締結しており、当第2四半期会計期間末現在300,000千円の借入金残高があります。この契約には、下記の財務制限条項(i)から(ii)が付されております。当該条項に抵触した場合は、(株)りそな銀行の当社に対する通知により、当社は(株)りそな銀行に対する本契約上の全ての債務について期限の利益を失い、直ちに本契約に基づき当社が支払義務を負担する全ての金員を支払い、かつ、本契約は終了することとなります。

(i) 本契約締結日以降の決算期(第二四半期を含まない)の末日における単体の貸借対照表における純資産の部(資本の部)の金額を、前年同期比75%以上に維持すること

(ii) 本契約締結日以降の決算期（第二四半期を含まない）の末日における単体の損益計算書に示される経常損益を損失としないようにすること

※2 偶発債務

保証債務

次の保証先について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
医療法人社団 和五会	一千円	30,000千円

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
従業員給与手当	284,087千円	326,889千円
貸倒引当金繰入額	△560千円	1,925千円
賞与引当金繰入額	19,160千円	24,874千円

※2 前第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)及び当第2四半期累計期間(自2020年7月1日 至 2020年12月31日)

当社の売上高は、主たる事業である建設事業において、契約により工事の完成引渡し第3、第4四半期会計期間に集中しているため、第1、第2四半期会計期間における売上高に比べ第3、第4四半期会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
現金預金勘定	3,338,908千円	2,598,919千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	△1,563,620千円	△1,305,001千円
現金及び現金同等物	1,775,288千円	1,293,918千円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当金(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年9月26日 定時株主総会	普通株式	205,510	180.0	2019年6月30日	2019年9月27日	利益剰余金

II 当第2四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当金(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月29日 定時株主総会	普通株式	119,877	105.0	2020年6月30日	2020年9月30日	利益剰余金

(金融商品関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(持分法損益等)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
関連会社に対する投資の金額	6,600千円	6,600千円
持分法を適用した場合の 投資の金額	177,279千円	197,311千円

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
持分法を適用した場合の 投資利益の金額	3,894千円	23,688千円

(企業結合等関係)

(事業分離)

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

株式会社ケアネット・トキ

(2) 分離した事業の内容

ロケアホーム北赤羽及びロケア在宅サービス北赤羽の介護事業

(3) 事業分離を行った主な理由

当社は、特定施設入居者生活介護事業を強化するため、事業所の譲渡を決定いたしました。

(4) 事業分離日

2020年10月1日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする事業譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

事業譲渡益 11,625千円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

固定資産 2,720千円

資産合計 2,720千円

(3) 会計処理

「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 2013年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき処理を行っております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメント

介護事業

4. 四半期累計期間に係る四半期損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	建設事業	不動産販売 事業	建物管理 事業	介護事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	2,976,681	—	1,891,701	2,476,589	7,344,972	—	7,344,972
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,976,681	—	1,891,701	2,476,589	7,344,972	—	7,344,972
セグメント利益	139,274	—	34,276	181,537	355,088	△284,623	70,465

(注) 1. セグメント利益の調整額△284,623千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	建設事業	不動産販売 事業	建物管理 事業	介護事業			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	5,417,802	9,015	1,767,896	2,488,510	9,683,225	—	9,683,225
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,417,802	9,015	1,767,896	2,488,510	9,683,225	—	9,683,225
セグメント利益	263,490	6,015	113,473	244,002	626,982	△282,424	344,557

(注) 1. セグメント利益の調整額△282,424千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	25円68銭	183円22銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	29,315	209,180
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	29,315	209,180
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,141	1,141

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年2月10日

工藤建設株式会社
取締役会 御中

清陽監査法人

東京都港区

指定社員
業務執行社員

公認会計士 野 中 信 男 ㊞

指定社員
業務執行社員

公認会計士 石 倉 郁 男 ㊞

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている工藤建設株式会社の2020年7月1日から2021年6月30日までの第50期事業年度の第2四半期会計期間（2020年10月1日から2020年12月31日まで）及び第2四半期累計期間（2020年7月1日から2020年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、工藤建設株式会社の2020年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実

施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。